

品川サンケイビル

Shinagawa Sankei Building

No. 15-005-2010更新
新築
事務所

発注者	株式会社サンケイビル	カテゴリー				
設計・監理	東急建設株式会社一級建築士事務所 TOKYU CONSTRUCTION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	東急建設株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

環境配慮型ハイグレードオフィスビル

環境配慮項目の選択

外皮性能の向上においては、南西を道路に面しているために熱負荷の低減が第一に求められた。その一方で、条例で一定規模の緑化面積を問われていたため、日射遮蔽の方法としてアピール度の高い壁面緑化を採用し、まちなみ・景観、環境に配慮した環境配慮型のオフィスビルを目指した。室内環境の充実をはかるため、道路面はカーテンウォールを採用したため、ガラスはLow-Eガラスを選択した。

設備システムでは、外壁を全面ガラスとしたことで、事務所内に自然光を取り入れることが可能となり、昼光利用・初期照度補正が行える照明を選択した。また、共用部の一部は長寿命のLED照明と人感センサー対応型の照明を選択した。

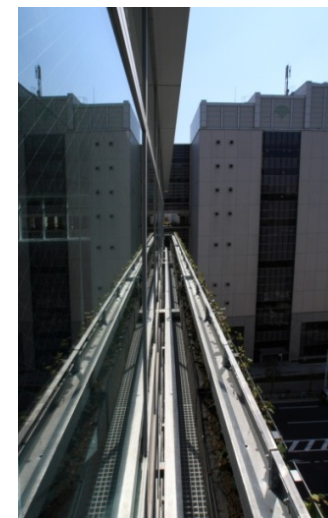
その他の環境配慮項目として、節水型トイレを採用や、屋上緑化による最上階のオフィス内の空調負荷低減などを行っている。

上記の環境配慮項目を選択したことで、一般的な事務所と比較し、大幅なCO2の削減も実現し、ヒートアイランドなどの地球環境やまちなみ・景観に大きく貢献しているハイグレードなオフィスビルとなった。



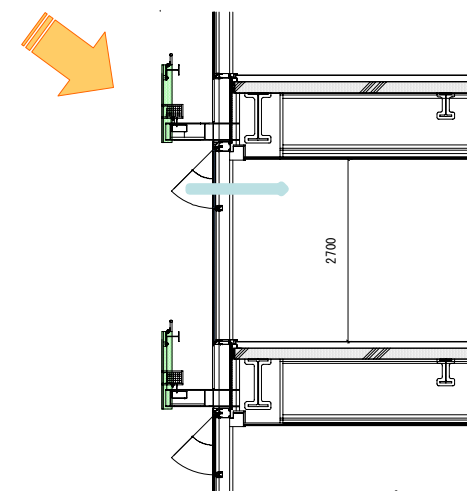
南西側外観

内部環境に配慮した壁面緑化の提案
室内環境の充実と、環境配慮を問われたため、壁面緑化のディテールとカーテンウォールのディテールには設計上の工夫を凝らした。天井と床の間のスパンドレル部に壁面緑化を行い室内側から外部への視線を確保することができるディテールとした。一方で、壁面緑化を外壁の庇と捉え、空調負荷の低減も実現した。また、中間期にワーカーが換気が行えるようにサッシュの開口部形状の工夫も行った。上記を実現したことで、内観写真に現れるように明るく、透明感のあるオフィス空間を実現した。



壁面緑化

壁面緑化、庇による日射遮蔽効果



外壁断面

ワーカーのためのリフレッシュスペース

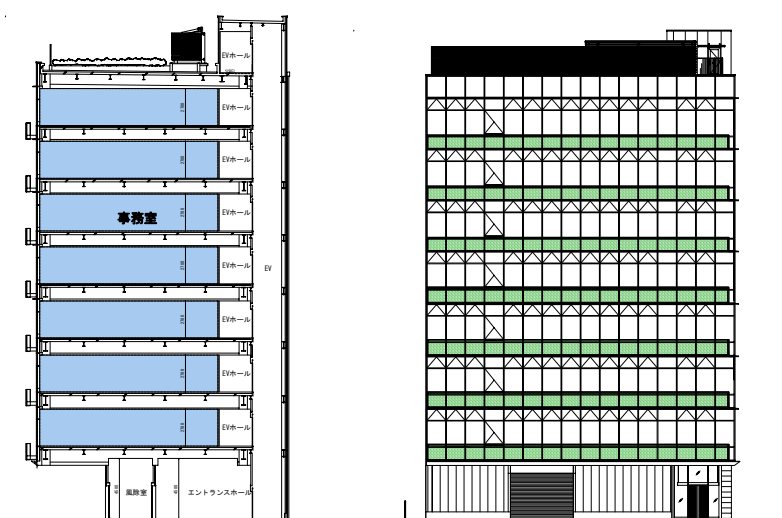
屋上緑化は、環境配慮とワーカーへの配慮の両方を実現した空間となっている。環境配慮としては、ヒートアイランドへの配慮と最上階の空調負荷の低減を実現している。ワーカーへの配慮として、リフレッシュが行えるように屋上緑化を庭園として設計した。また、分煙対策として屋上に喫煙所を設け、天候に左右されないでリフレッシュできるようにオーニングを実装した。



事務所 内観

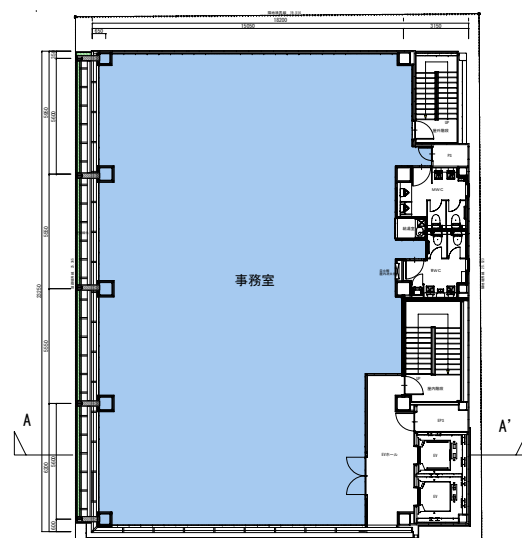
設計担当者

建築：内田 俊介・宮島 孝之・高橋 数人/構造：島川 孝志/電気設備：古園 昭義/機械設備：梅津 史朗

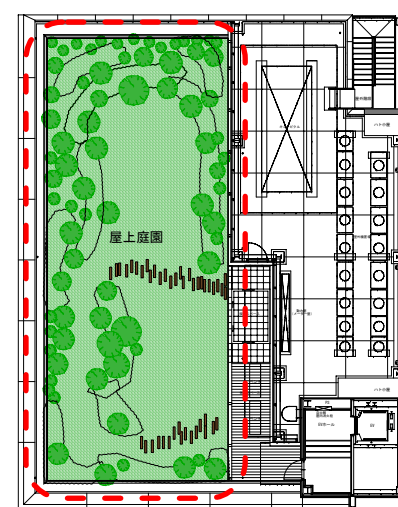


A-A' 断面図

西立面図



基準階平面図



屋上階平面図



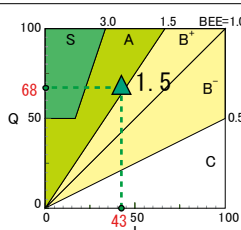
屋上庭園

建物データ

所在地	東京都港区
竣工年	2009年
敷地面積	497.47㎡
延床面積	3263.83㎡
構造	S造
階数	地上8階

CASBEE評価

Aランク
BEE=1.5
2006年度版
自己評価



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (壁面緑化、屋上緑化)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (Low-Eガラス、小庇、壁面緑化、屋上緑化)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (換気の促進)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、昼光利用、初期照度補正、人感センサー)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型便器)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (壁面緑化、屋上緑化)